

2 学年技術・家庭科学習指導案

日 時 平成 20 年 9 月 1 2 日 (金) 2 校時

学 級 2 年 1 組 (男子 14 名 女子 17 名 計 31 名)

授業者 佐々木 由貴子

1 題 材 「消費生活から自分と社会との関わりを考えよう」 (「わたしたちの消費生活と環境」)

2 題材について

「わたしたちの消費生活と環境」は、指導要領における「B 家族と家庭生活」の(4)の内容にあたり、「家庭生活における消費の重要性に気づかせ、販売方法の特徴や消費者保護に関する学習を通して、物資やサービスの適切な選択、購入及び活用などができるようにするとともに、環境に配慮した消費生活が工夫できるようにすること」をねらいとしている題材である。今回は特に食生活の具体的な場面を取り上げながら消費生活や環境に配慮した生活について学習を進めたいと考えている。また、本校では総合的な学習の時間「SHEL」で環境問題に関わる内容を多く取り上げていることから題材後半部分の学習内容は「SHEL」と深く関連づけながら学習を進める予定である。

3 生徒について

2 年 1 組の生徒は明るく素直であり、教師の発問にも積極的に答え、家庭分野の学習に興味を持って取り組んでいる。また、加工学習における基礎的な技能も身に付いており、楽しんで製作学習を行うことができる。今年度の 2 年生は 1 年後期と 2 年前期の家庭科の学習の中で「生活の自立と衣食住」の内容をおおよそ終えている。また消費者としての学習内容(表示の見方、食品の選び方など)は機会を捉えて何度か学習を行っている。

今回の学習内容である消費生活や金銭の扱いに関することは、興味はあるものの、身の回りの学用品等は保護者が供給するため、あまり明確な意思を持って購入している商品は少ない。また情報として、消費者被害の事例等は知っているものの、それが自分たちの生活と結びついているという実感はあまり持っていない。そのため、なるべく最新の情報を取り上げながら、身近な生活の場面を押さえ、学習を進めたい。

4 指導の構想

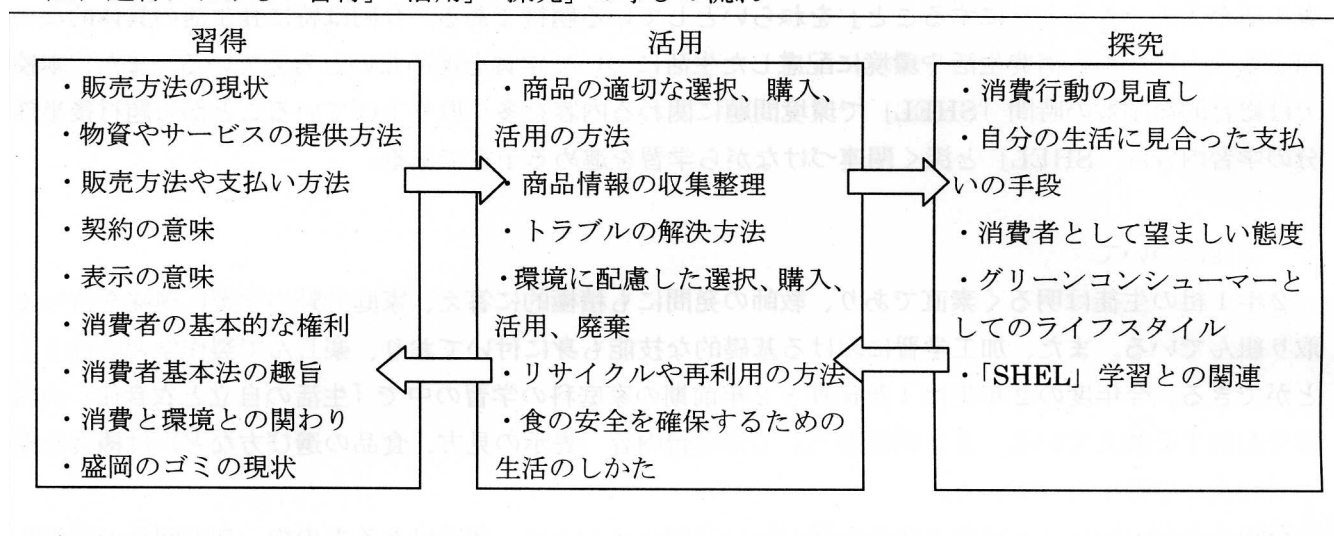
題材の導入では、家庭生活の中での経済活動や消費活動が社会と関わっていることについて気がつかせ、中学生でも物資やサービスを購入していることを確認する。そして購入をする際には表示をはじめとして様々な情報源を活用して商品を購入することの必要性を学び、具体的な購入方法や支払い方法について学ぶ。そして最近起こっている表示の偽装問題等に触れながら、それらの問題の背景とそれらから消費者を防ぐ法律や権利について学び、食品に関わる諸問題(ごみ問題・省エネルギー・食と安全)を取り上げながらよりよい消費生活を行うためには自らがどう行動すればよいのかをまとめ、学習内容を終了する予定である。「わたしたちの消費生活」では、特に中学生が扱うことができる範囲は限られるため、授業ではなるべく具体的な事例や、中学生が行動できるような場面を取り上げながら、消費生活をより適切に行うことは中学生にとっても大切なことであることに気づかせたい。

5 指導計画・評価計画

(1) 題材の評価規準 (7時間)

指導目標	関心・意欲・態度
・販売方法の特徴や消費者保護について知り、生活に必要な物資・サービスの適切な選択、購入及び活用ができる。 ・自分の生活が環境に与える影響について考え、環境に配慮した消費生活を工夫する。	家庭生活と消費について、関心を持って学習活動に取り組み、消費生活をよりよくしようとしている。
	工夫し創造する能力
	消費生活について課題を見つけ、その解決をめざして工夫している。
	技能
	物資・サービスの適切な選択、購入及び活用、廃棄ができる。
	知識・理解
	家庭生活と消費生活に関する基礎的な知識を身につける。

(2) 題材における「習得」「活用」「探究」の学びの流れ



(3) 題材の指導計画

時間	主な学習内容	学習目標	評価規準
第1時	・物資やサービスの様々な提供方法を知る。	・様々な物資やサービスについて知ろう。	・自分の消費行動に関心を持って学習に臨んでいる。(関) ・自分の消費行動の問題点と改善方法をあげることができる。(技) ・物資やサービスの様々な提供方法について説明できる。(知)
第2時	・商品を購入する際の条件や視点を知り、商品の選択ができる。	・食品の表示から、商品の選択を考えよ	・商品の情報について自分にとって必要な情報とそうでない情報について説明でき、商品の選択ができる。(創) ・商品についての情報を収集整理し、適切な選択方法

		う。	をまとめることができる。(技) ・商品に付いているマークや表示の意味を読み取ることができる。(知)
第3時	・商品の販売方法や支払い方法について知る。 ・契約の意味を知り、消費者が適切な行動を取る必要があることを知る。	・商品の販売や支払い方法について知ろう。	・身近な販売方法の特徴、利点や問題点について考えようとしている。(関) ・中学生に関わりの深い販売方法や支払い方法の利点と問題点について説明できる。(知) ・契約の意味を説明できる。(知)
第4時	・消費者を取り巻く問題と解決方法、関連する法律を知る。 ・消費者の権利と義務を理解する。	・消費者を取り巻く問題について考えよう。	・消費者を取り巻く問題・消費者の権利と義務について考えようとしている。(関) ・消費者の権利を実践に結びつけることができる。(技) ・消費者を取り巻く問題と解決方法、関連する法律を説明できる。(知) ・消費者の権利と義務を理解する。(知)
第5時	・ごみの問題から消費生活と環境との関わりについて考える。	・ゴミ問題と生活環境について考えよう	・ごみの問題と環境との関わりについて興味を持って学習に臨んでいる。(関) ・ごみの問題を解決するための生活のしかたを考え、工夫している。(創) ・ごみの問題と環境との関わりについて要点を説明できる。(知)
第6時	・エネルギーの問題から消費生活と環境との関わりについて考える。	・省エネルギーと生活環境について考えよう	・エネルギーの問題と環境との関わりについて興味を持って学習に臨んでいる。(関) ・エネルギー問題を解決するための生活のしかたを考え、工夫している。(創) ・エネルギーの問題と環境との関わりについて要点を説明できる。(知)
第7時	・食の安全に関する問題から消費生活と環境との関わりについて考える。	・食の安全と生活環境について考えよう	・食の安全の問題と環境との関わりについて興味を持って学習に臨んでいる。(関) ・食の安全を解決するための生活のしかたを考え、工夫している。(創) ・食の安全と環境との関わりについて要点を説明できる。(知)

6 本時について

(1) 主 題 食品の表示から商品の選び方について考えよう

(2) 目 標 ・商品の情報を正しく読み取り、商品についての適切な選択のしかたについて説明できる。

・様々な情報をもとに、自分の生活や嗜好に合った商品を選択できる。

評価目標	評価方法
商品に付いているマークや表示の意味を読み取ることができる。	◎パフォーマンス課題 商品の表示を見比べながら、商品を決断するために必要な情報を選択し、それぞれの商品の特徴を客観的に把握しつつ、自分の生活や嗜好にかなった商品の選択を行う。
商品についての情報を収集整理し、適切な選択方法をまとめることができる。	
様々な情報をもとに、自分の生活や嗜好にかなった商品の選択ができる。	

学習活動	評価項目	評価する活動・資料	ルーブリック			
			A	B	C	D
表示の読み取り	知識・理解	活動状況の観察(発言)・学習プリントの記入	商品についているマークや表示・資料等から、購入時に必要な情報の取捨選択を自分なりに明確にし、商品の選択ができる。	商品についているマークや表示、資料等から商品の選択ができる。	商品についている表示やマークのいくつかの意味がわかる。	表示やマークがついていることはわかるが、それ以上はよくわからない。
商品の情報収集と選択方法の決定	技能	学習プリントへの記入	商品についての情報について明確な視点を持って情報を収集整理し自分なりにまとめている。	商品についての情報を収集整理し、選択方法をまとめている。	商品についての情報を1つ見つけ、それをもとに商品の選び方を決めている。	商品についての情報を収集整理ができない。
意思の決定	創意・工夫	発言内容	商品の情報について必要な情報とそうでない情報について明確な視点を持ち、情報の重要性に区別をつけながら、商品の選択ができる。	商品の情報について自分にとって必要な情報とそうでない情報について説明でき、商品の選択ができる。	商品についての情報を1つよみ、それをもとに商品を選ぶ。	商品についての情報を生かさないで、感覚で商品を選ぶ。

(3) 本時の構想

本時は、「消費生活から自分と社会との関わりを考えよう」の2時間目に当たる。最初の時間では、経済が家庭生活の働きの中に大きな位置を占めることや、物資とサービス、商品の価値について学んでいる。ここでは、地元の産物であるリンゴを使った加工品を取り上げて商品の選択と購入のあり方について考えさせ、自らの意思決定の過程をわからせる授業にしたい。そのために、導入部分では、商品名のみを用いて、表示の必要性を認識させる。その後、いくつかの商品を提示し、値段や分量、品質の異なったリンゴジャムから、自分の生活や嗜好にかなった一瓶を選択するための多様な情報を整理し、班員と意見を交換しあいながら、最終的に自分の選ぶ商品を考えさせたい。その意思決定までの過程を一般化させることにより、商品の選択のしかたについて理解し、今後の生活に生かせるような形で授業を締めくくりたいと考える。

(4)展開

段階	時間	学習内容	学習活動	・指導上の留意点 ☆評価	教材教具等
導入	5	・導入題材の提示	・4種類の商品を提示し、どの商品を購入したいか個々の考えを出し合う。	・情報がないと確かな選択ができないことに気がつかせる。	
		・本時の目標の確認	・本時の目標を確認する。	・商品の選択に必要な情報は何かを出させる。	・紙板書
食品の表示から、商品の選び方について考えよう					
展開	40	・題材の提示	・加工品であるジャムを観察し、それぞれの特色を視点をあげながら比較する。	☆商品に付いているマークや表示の意味を読み取ることができるか。(学習プリント) ・自分なりの視点を持って検討を行わせる。	・りんごジャム4種 ・学習プリント
		・表示の内容の確認	・商品の違いについて、それぞれの表示の内容を確かめる。 ・意見交流し、それぞれの商品の特色を確認し班として検討を行う。	・商品それぞれに特徴がありメリットやデメリットがあることに気がつかせる。 ・他の班の意見を聞き、様々な視点を持たせる。	
		・選択した理由	・商品を選択した視点をまとめ発表する。	・値段や原材料など商品選択を行うときにはいくつかの要素があることに気づかせる。	
		・商品選択の検討	・出された様々な商品についての情報から最適なものを検討しあう。	☆商品についての情報を収集整理し、適切な選択方法をまとめることができるか。(発言・学習プリント)	
		・個人の最終選択	・各班の発表を参考に、再度商品の選択を見直す。	☆様々な情報をもとに自分の生活や嗜好に合った商品の選択ができたか。	
		・商品選択までの流れ	・ジャムの購入方法をもとに、計画から反省までの流れを確認し一般化する。	・他の商品の例をあげながら確認させる。	・紙板書
終結	5	・様々な情報源	・商品についての情報を得るためには、様々なものがあることを確かめる。	・選択の一助としての表示やマークがあることを知らせる。	・ジャム1瓶
		・商品選択に必要な観点	商品選びに必要な観点を確認する。		・紙板書